

弊社生産委託養豚農場に関する件について

弊社が生産委託している農場（秋田県南部：肥育頭数 800 頭）において、本年7～9月に飼育豚のへい死が多発したにもかかわらず、行政所管（秋田県南部家畜保健衛生所）への報告が遅滞しておりました。なお、口蹄疫などの重大疾病の症状はありませんでした。関係者の皆様には、ご心配とご迷惑をお掛けし、深くお詫び申し上げます。

今後、農場管理のさらなる強化や飼育状況の異常事態に係る行政所管への迅速な報告の徹底など、このような報告遅滞が生じないように、改善に努めてまいります。

1. 経過

- (1) 10月15日（土）、弊社社員が当該農場巡回時に、農場主から本年7～9月に飼育豚のへい死多発の報告を受け、改めて10月17日（月）に弊社担当部課長が現地調査を行い、へい死多発と堆肥置場よりへい死した豚を確認しました。
- (2) 本年7～9月にへい死豚が通常（約5頭／月）より多発していた（約100頭／月）にもかかわらず、農場主は弊社や秋田県南部家畜保健衛生所への速やかな報告をしていませんでした。
- (3) また、通常、へい死豚は許可を得たへい獣処理施設で処理すべきところ、農場内の堆肥置場に埋めていたことがわかりました。
- (4) これを受けて、10月18日（火）、弊社農場担当部長が秋田県南部家畜保健衛生所へこれらの状況を報告しました。
- (5) 現在、農場のへい死状況は通常の状態にあります。

2. 衛生検査

- (1) 食用に出荷する豚は、すべてと場にて検査員（獣医師）により検査されており、その検査に合格したもののみが流通するので、食の安全性に問題はありません。
- (2) へい死した原因については、10月19日（水）、秋田県南部家畜保健衛生所が農場に立入調査するとともに、発育不良の飼育豚2頭を持ち帰り、4種類の重要豚疾病（豚コレラ、豚丹毒、豚オーエスキー病、豚流行性下痢症）を検査した結果、いずれも陰性であることの報告を受けております。
- (3) 念のため、全農家畜衛生研究所も同日農場に立ち入り、へい死原因究明のために自主検査を実施しております。10月27日頃には検査を終える予定です。

3. 今後の対応

- (1) 委託契約農家に対する管理・指導を再度徹底し、再発防止を図ります。
- (2) また、へい死豚の処理等についても、行政当局の指導を仰ぎ対応いたします。

以上